

GCOE 国際会議出席報告書 (外国旅費用)

拠点リーダー 川合 光 殿

(ふりがな) 氏 名	にしづか なおと	所属・職名	指導教員名 (院生の場合)
	西塚 直人	天文台・D3	柴田 一成
Tel,Fax e-mail	nisizuka@kwasan.kyoto-u.ac.jp		
発表題名	Chromospheric Reconnection observed with Hinode and Collisional Reconnection in the Solar Chromosphere		
著者名	N. Nishizuka, M. Shimizu, T. Nakamura and K. Shibata		
会議名称 ・開催期間	The 9th International School for Space Simulations (ISSS-9) 自 2009年 7月 2日 ~ 至 2009年 7月 10日		
開催地 (国、市)	フランス、Saint-Quentin-en-Yvelines 市		
出張期間	自 2009年 7月 1日 ~ 至 2009年 7月 12日		
国別参加者数	日本 20 人、フランス 30 人、ドイツ 20 人、その他のヨーロッパ 30 人、アメリカ合衆国 30 人、南米 10 人、中国・韓国・インド 40 人		
<p>発表内容、聴衆の反応、質疑応答、その他について簡潔に記述してください。 (口頭発表・ポスター発表の別も文中に明記すること。)</p> <p>今年 2009 年 7 月 2 日から 7 月 10 日の 9 日間、フランス共和国サンクタン・イヴリヌス市で開催された国際会議“第 9 回宇宙シミュレーション国際スクール(ISSS-9)”に参加発表してきましたので報告します。私は“Chromospheric Jet observed with Hinode and Collisional Reconnection in the Solar Chromosphere”という題名で、口頭・ポスター発表を行ないました。昨年 <i>Astrophysical Journal letter</i> に掲載された論文を発展させた内容で、論文の別刷りやポスターのコピーを持参し、見に来てもらった方々に自分の研究内容を紹介するととてもいい機会になりました。発表内容は、ひので衛星で観測された彩層ジェットと磁気リコネクションモデルに基づいた磁気流体シミュレーションとの比較結果を報告したもので、観測とシミュレーションの非常によい一致から、太陽彩層中で“速い”リコネクションが起きている可能性を示しました。本研究会は地球磁気圏プラズマ、プラズマ物理の発表が多数を占めていましたが、太陽と磁気圏プラズマとの共通点といった観点や宇宙天気予報といった観点から多くの研究者に興味を持ってもらうことができ、論文でしか知らなかった先生たちから貴重なコメントを戴くこともできました。特に磁気リコネクションのトリガー機構やアルフヴェン波の伝播などプラズマ素過程の物理について議論がはずみ、中でも磁気リコネクションはフラクタルで、マイクロだけでなくマクロ (乱流等) の物理も重要であることが磁気圏でも明かされつつあるという話は、太陽彩層中での“速い”磁気リコネクションと密接に関係があり、有意義な意見交換をすることができました。また、流体計算から粒子計算まで多階層のプラズマシミュレーションを学ぶことができ、現在進めている太陽粒子加速研究にとっても参考になりました。またシミュレーションスクールに参加した(外国人)若手研究者・学生とも親睦を深め、活発に議論したり共同研究の話を進めたりしました。とても刺激をうけ、今後の研究に活かしたいと思います。</p>			

